

あっ

幽々子様

どうしたんですか？

急に呼び出したりして

付いてきて欲しいんですか？

どこまでもお供しますよ？



主を信じ
辿り着いた場所は

長年住んでいても
見ることが無かった
無機質な地下室だった。



えっ、上の服を
脱ぐんですか……？

……で？

幽々子様の
頼みなら……

はい
これでいいですか？

でも、さすがに
恥ずかしいかな
❤



ひゃっ♥

明らかに怪しい
機械じゃないですか……

これをこうして♥

こ、これで
何するんですか？

あら
かわいいわ♥





針?

えっ!?

あっ

動き出したっ

幽々子様

この機械
針出てますよ!

あ、危ないですよ!?
止めてください!



は、針がっ!!

ちゅっ

オオオオオオ

おっぱいが引っ張られるっ♥

吸い込まないでっ!

少しチクっと
するだけよ

すぐに
気持ちよくなるわ♥

んんっ♥

ほら♥

はわわわ

大きくなってる!?

むいむい

針がどんどん深く...

ほほ

グサッ

おっぱいを大きくする
機械なんですか!?

んっ
♥

うーん
大きくなるのは
副作用で...

な、なに!?
おっぱい熱い♥

すごいッこれッ♥

あっああッ♥
死ぬッ死ぬッ♥

妊娠ナシでおっぱいが
いっぱい出るようになるの♥

おっぱい噴出するの
気持ちいでしょ♥

大丈夫♥
死なないわよ♥

あら、こっちからも
でちゃったの?

しょうがない子ね♥

ぽんぽん

ちゅちゅ

しゅ

ひゅ

くるくる

この後、1時間ほど放置され
機械のホース先に設置されたタンクは
彼女の母乳で満たされた

妖夢は疲れ切っていたが
幽々子に喜んでもらえて

どこか幸福感に満たされていた

そして翌日……



おはようございます
幽々子さまあ♥

今日のご要望通り
コーヒーを淹れてみました♥

も
ん
あ
ん

